トップの視点

医療法人 玄真堂　川嶌整形外科病院
理事長　川嶌　眞人氏

骨髄炎、潜水・潜函病による骨壊死、高圧酸素療法など、整形外科分野における世界トップレベルの研究と治療で実績のある川嶌整形外科病院の川嶌眞人理事長。1981年、郷里の大分・中津城下町に開院してからは、国内外から延べ28万以上が治療に訪れている。人口8万5,000人強の地方都市にあって「世界水準の医療で、地域の医療と文化と社会の発展」に取り組む川嶌氏にお話を伺った。

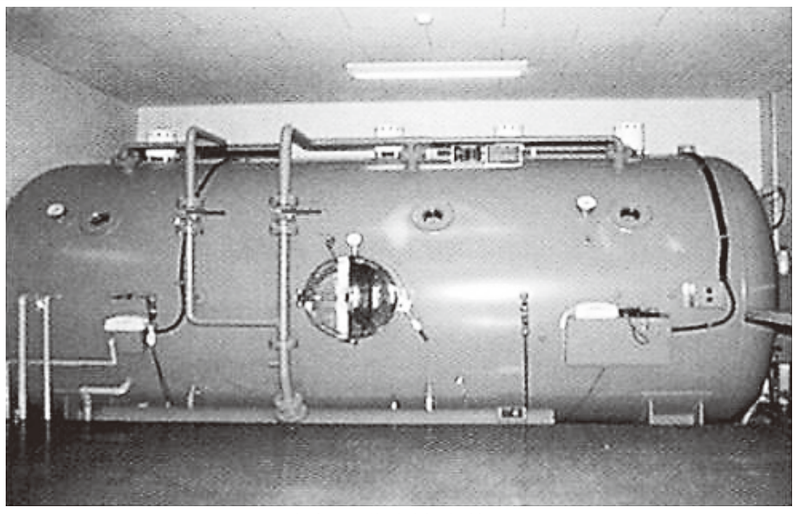
「最初は造船技師をめざしていました。当時は、造船業が日本一と言われていましたから、一番デッカイ船を造りたかった。」それが高校2年の終わりに転機が訪れる。1ケ月続いた微熱から開業医の診察を受け、医療の不思議さに感銘を受け、医者の道を志すきっかけとなる。

その後、郷里の中津市で開業し、以来、世界トップレベルの研究と医療、地域に必要不可欠の病院として成長し、2011年には30周年を迎える。人生の師匠に恵まれたお陰だと、川嶌氏は振り返る。

なかでも小学校5・6年生の担任・松山均氏、レジデントとして師事した虎ノ門病院の整形外科部長・御巫清允（みかなぎ・きよのぶ）氏、勤務医時代をおくった九州労災病院の院長・天児民和（あまこ・たみかず）氏に、多大な影響を受けたという。

川嶌氏は、東京医科歯科大学医学部に進学。アメリカ式のレジデントシステムをいち早く導入し「高い水準での臨床研修制度を誇っていた」虎ノ門病院整形外科で、生涯の師と仰ぐ御巫部長と出会う。「病室は研究室、患者は教科書」と、徹底的に臨床医としての基本を身につけていく。

レジデント2年目の1970年、川嶌氏は「虎ノ門時代の最大の出会い」をする。8年間で20回もの骨髄炎手術を受けた20歳の女性である。先輩医師と患部を掻爬しても、やはり膿がでる。考えるも手だてがない。そのときアメリカ・シカゴの局所持続洗浄で治癒した症例論文を目にする。さっそく点滴チューブで代用し、試みる。「1回目の局所持続洗浄で瘻孔が治癒しました。退院されたときは、信じられない思い、感動、そして喜びでした。」その年、川嶌氏は膿を排出する際にチューブが閉塞するという問題をクリアし、1971年には16例の結果を東京大学で開催された関東整形災害外科学会で発表する。

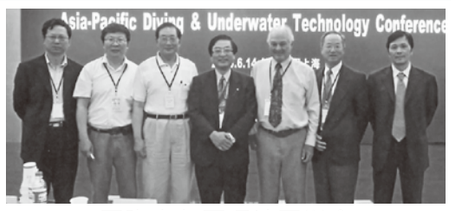


高気圧酸素治療装置

今では、「川嶌式」を使用した骨髄炎治療は、標準治療として日本整形外科学会の卒業研修ビデオにも収載され、また海外でも高い評価を得ている。

1972年、天児氏の招聘に応じ、九州労災病院へ。「骨髄炎の研究と治療に加え、『潜水・潜函病に伴う減圧性骨壊死』の研究を手伝うためでした」

九州労災病院では、潜水・潜函病患者に骨壊死が頻発していることは先輩医師の調査で分かっており、高気圧治療が行われていたが、原因究明の研究は進んでいなかった。川嶌氏は「減圧症と骨壊死の研究」に取り組む。有明海・大浦漁協での調査なども行い、潜水士の50％以上が骨壊死を起こしている現実、日本の潜水士の労働環境が劣悪であることも知り、労災認定にも動く。



国際高気圧環境医学会
北京にて2008年

1975年には、潜水士の骨壊死の労災認定第1号を勝ち取っている。一方で天児氏は、「研究し論文を書き、頻繁に世界で発表する」ことを川嶌氏に指導する。「開業してからも、国際学会に毎年、演題を発表するのは大変困難で辛いことも多いのですが、天児先生の言葉をかみしめながら学術活動を続けています」

骨髄炎女性との出会いがあり、九州労災病院への着任当時40％だった再発率は川嶌式の持続洗浄チューブセットの発明で9％にまで下がり、さらには高気圧酸素療法との出会いで現在では5％台をキープしている。こうした実績は一例であるが、川嶌氏が臨床と研究とを一対として取り組んでいなければ叶わなかったことだろう。「臨床で疑問に思ったこと、ヒントとなったことをテーマに更なる研究をしていく」それが、今日の川嶌氏の医療者としての根幹を成し、スタッフ教育の基点となっている。それは提供する医療に留まらない。医療安全管理も含めた病院としての質向上、地域で必要とされる病院としての成熟をも意味している。

国際潜水高気圧環境学会で
シリング賞受賞2002年7月

2000年に一般病院としては大分県で第1号の一般病院種別（A）の認定を受けた同院は2010年8月、病院機能評価Ver．6を取得した。2009年度の年間手術件数は、1,370件、急患数は1,528人、高気圧治療患者数は4，056人。

「リスクの高い手術をやっているが、一度も裁判になったことはない」という同院は、しかも「この10年は無借金経営」が続いている。そして今、2012年の完成を目指し、玄真堂の全医療介護施設・クリニックの全面的な増改築とシステムの改革・改善が、スタッフ主導、最終判断は川嶌氏というプロジェクトで動き出している。

「トップとして大切なのは、自分の理念をスタッフにしっかり伝えること。伝われば、有機的な連携とともに主体的に奮起してくれます」

地域にあっては社会奉仕が最重要課題だという。

「ブーメランのようなもので、治療をする、あるいは心を豊かにする、幸せにするといった社会貢献がなければ、自分たちも心豊かに、幸せにはなれません。まずは自分から、病院から社会貢献に動くことです。地域の共通資本として認められれば、一緒に病院を育ててもらえるでしょう」

「医は仁ならざるの術務めて仁をなさんと欲す」川嶌氏が医の心とする、中津藩医を代々務めた大江家の医訓である。

川嶌氏は、この言葉を常に心に刻み、日々医療の最前線に立つ。

中津 蘭学とパイオニア精神

1 最初のオランダ船 リーフデ号

医療法人玄真堂
川嶌整形外科病院
理事長
川嶌　眞人氏

この項を書き始めるにあたって、去る3月11日、東日本大震災で亡くなった方々へ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また被災された多くの方々には心からお見舞いを申し上げます。

中津は前野良沢から福沢諭吉にいたるまで多くの蘭学者、パイオニアを輩出したことで全国的にも知られている。市内には村上医家史料館、大江医家史料館、福沢諭吉資料館をはじめ中津城三階にいたるまで、蘭学に関する多くの史料が展示されている。このシリーズでは中津の市民や中津を訪れた方々のために、なるべく平易に中津の蘭学者とパイオニア精神について書いてゆくつもりである。

そもそも蘭学とはオランダ由来の学問とされているが、厳密にはオランダ人を通じて日本に持ち込まれたヨーロッパの学問である。そのオランダ人はいつごろ、どのようにして、日本にやってきたのであろうか。蘭学の歴史は歴史の激変のさなかを生き抜いてきたオランダ人のパイオニア精神と蘭学という全くちがう世界の学問と思想を受け継いで自分たちのものにしていった、日本人のパイオニア精神との融合の歴史である。今日未曾有の大震災に遭遇している我々日本人が復興を夢見てチャレンジすべきパイオニア精神育成の参考になれば幸せである。

ハウステンボスで復元されたリーフデ号

2006年1月2日、臼杵市中心街からほど遠くない佐志生の海岸沖にある黒島を初めて訪ねた。この島は1600年4月19日にオランダ船リーフデ号が漂着したことで知られている。島には日本に最初に到達したオランダ船リーフデ号に関する記念碑や記念館、歴代のオランダ大使が植樹した記念樹など、日本とオランダとの関係を示す興味深いものが見られた。2000年の4月に日蘭交流400周年行事の一環として当時の大分県知事平松守彦氏の主催による両国皇太子歓迎の祝賀会が別府で開催された。翌日には復元されたオランダ船でこの黒島を訪れられた両国皇太子をお迎えして記念碑の除幕式があった。引き続き、臼杵市にて記念シンポジウムが開催され、筆者も「中津藩と蘭学」について講演をさせていただいたことが昨日のように思い出された。

リーフデ号漂着記念碑（黒島）

天文12年（1543）、ポルトガル船が種子島に漂着したことが日本人の西洋との接触の始まりであり、その後スペイン人がやってきてキリスト教を普及させていった。スペイン王でポルトガル王を兼ねたフェリペ二世は、新領土に加えたオランダが独立を宣言したことから、オランダ船のリスボン入港を禁じた。リスボンで東洋からの貨物を仲介していたオランダは、その航路を絶たれたために、自ら船隊を組んで東洋貿易に乗り出していかざるをえなくなっていた。

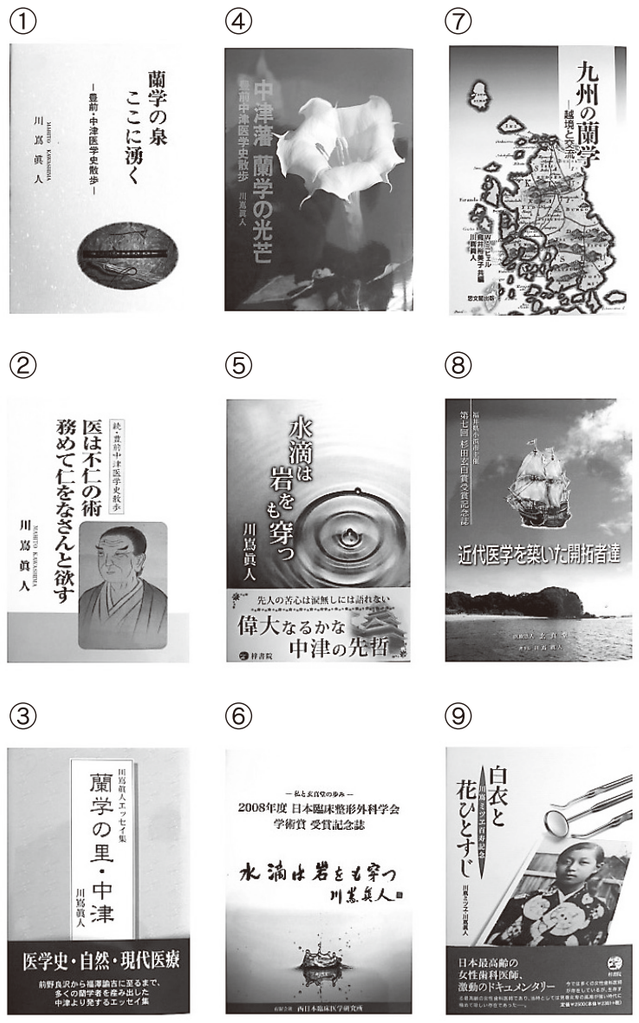
ウィリアム・アダムス像

参考文献

一、岡田章雄：三浦按針、思文閣出版、京都、1984年
二、惣郷正明：洋学の系譜、研究者出版、東京、1984年
三、大分歴史博物館：おおいた蘭学事始、宇佐市、2005年
四、平戸市日蘭交流400周年記念事業実行委員会、平戸オランダ商館展、2000年
五、神戸市立博物館、日蘭交流のかけ橋、1998年

高度な専門技術と
ぬくもりのある医療を目指して

日本医療機能評価機構認定病院
救急告示病院
川嶌整形外科病院
医療法人 玄真堂
理事長 川嶌眞人



川嶌眞人　出版物

①蘭学の泉ここに湧く
　豊前・中津医学史散歩（3,000円）

②続・豊前中津医学史散歩
　医は不仁に術務めて仁をなさんと欲す（2,300円）

③川嶌眞人エッセイ集
　蘭学の里・中津（1,260円）

④中津藩　蘭学の光芒
　豊前中津医学史散歩（2,625円）

⑤水滴は岩をも穿つ（3,000円）

⑥私と玄真堂の歩み（2,000円）
　2008年度　日本臨床整形外科学会　学術賞　受賞記念誌

⑦九州の蘭学（2,625円）
　越境と交流

⑧近代医学を築いた開拓者達（2,000円）
　福井県小浜市主催　第7回　杉田玄白賞受賞記念誌

⑨白衣と（川嶌ミツエ百寿記念）花ひとすじ（2,500円）

お求めは川嶌整形外科病院まで
〒871-0012　大分県中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464 / FAX0979-24-6525
E-mail gensin@fat.coara.or.jp